

七 草

岐阜県博物館友の会 副会長 川嶋 智孝



県博物館の行事に「七草粥を食する会」がありました。今はコロナ禍の影響から中止となっていますが残念です。その七草は春の七草で、主に食材の野草です。

芹

せり
(標準和名)

薺

なずな
(標準和名)

菰

すずな
(カブ)

蘿蔔

すずしろ
(ダイコン)

仏の座

ほとけのざ
(コオノタビラコ)

御形

ごぎょう
(ハハコグサ)

繁縷

はこべら
(ハコベ)

これが七草 と三十一文字にして覚え



るといいと思います。

七草粥は、五節句「正月七日・人日（じんじつ）の節句」「三月三日・上巳（じょうし）の節句」「五月五日・端午（たんご）の節句」「七月七日・七夕（たなばた）の節句」「九月九日・重陽（ちようよう）の節句」の一つ、「正月七日・人日の節句」に食する習わしです。若菜節・七種の祝いとも言われています。江戸時代にこの日が五節句の一つとして定められ、幕府の公式行事として将軍以下が七草粥を食べて祝ったとされています。

また、人日の節句と言われるのは一六日は獣畜を占い七日に人を占うという説があります。今では正月が近くなるとスーパーやコンビニでも七草が売られている時代になりました。一方秋の七草は、主に観賞の花木が対象です。

萩

はぎ

尾花

おばな
(すすき)

桔梗

ききょう



撫子 なでしこ

女郎花 おみなえし

葛 くず

藤袴 ふじばかま



これも七草 と三十一文字で記憶すると覚えやすいと思います。

博物館のある百年公園には、春の七草は勿論、秋の七草も見つけることが出来るのではないのでしょうか。

日本には四季があり二十四節気がありそれがさらに初候・次候・末候と分かれて七十二候となりみごとに季節感で東洋の思想の奥深さが思い知れます。二十四節気は現在でも日本ばかりではなく中国・韓国・アジア諸国でも使用されているといわれています。「立春」から始まり「大寒」までその名称は中国華北の気候に由来しますが、日本でも長い間使用されているため、日本人の季節感にも合うものになっています。正式な日時は国立天文台で計算したものが前年の二月一日に『官報』で発表されています。

本稿が皆様に届くころは秋本番で、秋の七草の最盛期だと思います。博物館には関連した展示もたくさんありご覧いただき百年公園を散策されたら健康にも良いと思います。是非お出かけください。

百年公園の停電に伴う県博物館の臨時休館について

岐阜県博物館 副館長 河田 哲也

友の会会員の皆様には、日頃より県博物館の運営にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

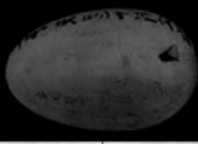
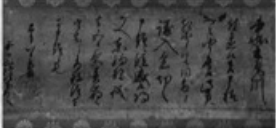



当館は、百年公園へ電気を供給する高压電線の不具合によりすべての電力を失い、7月15日から臨時休館となりました。会員の皆様には多大なるご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げますとともに、ご心配やご支援のお声がけをいただいたことに厚くお礼申し上げます。

本稿は9月5日に執筆しておりますが、突然の停電により、全ての電力を失い来館者の皆様をお迎えできなくなってから、すでに2か月弱が過ぎようとしています。臨時休館をした当初、外部との連絡手段は停電中でも使用できるたった1本の災害対応用の電話のみでした。その電話にお客様から「折角、百年公園まで訪ねてきたのに入館できない」とのお叱り、あるいは、「館内の催し物を楽しみにしていたのに残念だ」といった多くのお声をいただきました。電話を受けた職員は本当に申し訳ないとの思いをする一方で、大変多くの皆様にご来館を楽しみにいただいていたことをあらためて実感し、感謝の気持ちを深くしたいと思います。

停電後しばらくは、館内空調はもちろん照明もなく、

近隣の県有施設を間借りし業務を行う状況でしたが、8月27日には当館への電力供給が再開され、本稿の執筆時には、9月中旬の再開を目指し職員あげて準備に取り組んでいる最中にあります。この会報が発行される頃には、当館は再開していることでしょう。開館後は、休館中に頂戴したお叱り、激励などのお声を糧に、より魅力的な展示やプログラムを皆様に提供してまいりますので、友の会会員の皆様におかれても、是非ご来館をいただければ幸いです。

再開後の幕開けとして、臨時休館によりわずか2日しか開催できなかった特別企画展「鳥の卵のひみつ」を会期変更し11月30日まで開催しています。また、年明け2月からは博物館・歴史資料館連携企画展「豊臣秀吉と美濃」を開催、さらに、来年度は開館50年の節目の年にふさわしい事業を展開し皆様をお迎えしたいと考えております。臨時休館により展示やプログラムを実施できなかった期間をとりかえせるよう、職員一同、来館者の皆様にご満足いただくため精一杯努めてまいりますので、どうぞこれからも当館をご支援いただきますようお願い申し上げます。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別企画展・企画展	博物館・岐阜大学連携 特別企画展 鳥の卵のひみつ -Bird Eggs- 9/13(土) - 11/30(日)  <small>尖閣諸島で採集されたアホウドリの卵殻 兵庫県立人と自然の博物館蔵</small>				博物館・歴史資料館連携企画展 豊臣秀吉と美濃 2/14(土) - 3/29(日)  <small>羽柴秀吉筆印歌 岐阜県博物館蔵</small>	
マイミュージアムギャラリー展示	岐阜生まれの戦国武将 黒野城唯一の城主・加藤貞泰展 10/25(土) - 11/24(月振) 出展者：黒野城と 加藤貞泰公研究会  <small>加藤貞泰公像画 大洲龍溪山曹岳院蔵 (パネル展示)</small>	暮らしを彩る手仕事展 12/13(土) - 1/18(日) 出展者：ふれあいパッチワーク教室 代表 横山 浩子 	魅惑のにゃんこ展 -アールヌーボーの美学- 2/7(土) - 3/8(日) 出展者：前田 健登 			

※特別展「尾張徳川家ゆかりの美濃刀」は令和8年度以降に開催予定です

岐阜県博物館サテライト展示

岐阜県博物館・岐阜大学・大垣北高等学校連携企画 「オオサンショウウオの雑種は外来種？」

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

2023年8月、下呂市金山町を流れる菅田川でチュウゴクオオサンショウウオと在来オオサンショウウオとの交雑個体が見つかりました。チュウゴクオオサンショウウオは中国原産で、日本へは1972年ごろ、食用として持ち込まれました。現在、京都府、奈良県、三重県、滋賀県及び広島県などに定着しています。交雑種は、これまでに、愛知県、滋賀県、京都府、三重県、奈良県、大阪府、岡山県及び広島県でも確認されています。岐阜県では、「在来種×交雑種」または「交雑種×交雑種」が多く、外見で区別することが難しいものもあります。交雑種は、在来種の巣穴を奪ったり、交雑することで在来種の特徴が失われたりするなどの問題があります。また、交雑種は長生きなので、長期間にわたり、在来種への影響が続きます。

今回の連携企画では、菅田川で捕獲された交雑オオサンショウウオの剥製や骨格を展示しています。あわせて岐阜大学地域科学部や大垣北高等学校自然科学部の研究成果や活動もパネルで紹介しています。お近くの商業施設で開催の折はぜひお越しください。



▲交雑オオサンショウウオ

サテライト展示

「オオサンショウウオの雑種は外来種？」

開催実績と今後の予定

- ①7/23水～8/28木(終了) マーサ21
- ②9/4木～9/25木(終了) イオンモール各務原インター
- ③10/8水～10/30木(開催中) カラフルタウン
- ④10/31金～12/3水(次期開催) モレラ岐阜

岐阜県博物館移動展

「ゆかいな冬芽たち」

岐阜県博物館 学芸部 松久 聖子

令和7年8月23日(土)から10月5日(日)まで、岐阜県図書館2階、企画展示室Ⅱにて、博物館・図書館連携展「ゆかいな冬芽たち」を開催しました。

冬芽とは、次の春に開く葉や花が、厳しい冬の間、じっと待っている状態です。夏頃から小さな冬芽がで始め、冬が近づく頃には、立派に育ちます。冬芽は、樹木の種類によって違いがあります。また、葉が枝から落ちた痕(葉痕)は、動物などの顔に見えることがあり、思わずほほ笑んでしまうようなかたちも多々あります。

本展では、身近で見られる樹木について、冬芽と葉痕の拡大写真とともに、押し葉標本も展示しました。落葉樹であれば、冬には葉が落ちてしまい、樹木を見分けることが難しくなりますが、来たる冬に向けて、気になる冬芽とその葉をチェックしていただけたら、との思いからです。

冬芽は小さいものも多く、マニアックな世界ではありますが、晴れた冬の日、澄んだ空気の中で、葉が落ちた樹木を観察するのも、味があります。虫めがねで覗いた先に、ゆかいな顔が見られたら、もしかしたらその世界にハマってしまうかもしれません。



▲オニグルミ



▲サンショウ

戦後八十年を迎えて

岐阜県博物館友の会 栗山 紀子

私は北京で生まれました。「えっ？ どういうことですか？」と思われる方もいるかもしれません。私たちは終戦後、中国から引き揚げてきた一家五人です。

父は日本国有鉄道から河北（華北）交通に軍属として配属されていました。母も結婚と同時に中国へ行きました。中国での父の現場は遠く、家からさらに二日間程かかる所でした。母は一人で言葉の通じない、親兄弟・親戚もいない、西も東も分からない所でたいへん苦労したようです。おまけに私は医者から「この子は二十歳までもたないだろう」と言われるほど体が弱く七回も入退院を繰り返し、心配かけたそうです。

妹が生まれて中国人のアマ（阿媽；女中さん）に來てもらっていましたが、アマが妹ばかりかわいがるのでおもしろくなかったこと、外出する時はヤンチョ（人力車）を利用するのですが、日本人を見ると一斉に走ってくるので、その中の一台を指定して、母と二人で乗り、黄砂除けの白いすかしの布を頭からスッポリとかぶり結んでもらっていたこと。当時のことは断片的にしか覚えていませんが、空襲警報が鳴ると急いで防空壕に入りました。

終戦を迎えた時、私は五歳、妹は三歳、弟は零歳（二十年九月生）でした。私は一番上なのでしっかりしなくてはと思っていました。日本が戦争に負けたことがわかると「お前ら負けただろう」と中国人達はいばった態度にがらりと変わりました。外地で暮らす者にとっては日本の国の威力はたいへん重要な役割を果たしていました。戦争に負けたとたんに立場が逆転して、なかにはひどい目にあった人もいたようです。ただ、北京市内には軍服を着た日本兵達が残っていて、日本人がひどい目に遭うことはあまりなかったようです。ソ連から命がけで逃げてきた人たちの家族を私たちの家に受け入れ、一つ屋根の下で同居するようになりました。私と妹はいつもままごと遊びをしていて、妹が「とんとん ごめんくらたい、おくたんですか」というと、襖の向こうの隣の部屋で暮らしている人達の「くすくす」と笑い声が聞こえてきました。

日本へ帰ることになり、今まで使っていたすべての物を支那人にゆずりました。でも私の大事な蓄音機だけは「嫌だ」と、泣いてしがみついていたのを覚えています。しかし、それも知らない間になくなってしま

した。日本へ帰る準備は、手に持てるだけの荷物（おむつが多かったと思います）と三人の子供だけです。

港へ向かう列車に乗るために貨物列車に詰め込まれました。戸を閉めると真っ暗で、何も見えない状態でした。どこかの女の人が私の上にとんと乗ってきて、痛くて泣いたのは覚えています。

やっと港の近くまで来ました。そして、いつ来るかわからない迎えの船を、アンペラ小屋とよばれているゴザで出来たような小屋で寒さをしのいで何日も待っていました。兵隊さんがよちよち歩きの妹を「雅子ちゃんかわいい」と懷に抱いて連れ歩くので、私はとられるのではないかと心配で付いて歩いていました。凍てつくような寒いところで母は弟のおむつを洗っていてさぞかし大変だったと思います。何日か経って、迎えの軍艦が来て船着き場の方へ行くのですが、まるで田んぼのようにどろどろのぬかるみで私と妹は足をとられて靴が脱げてしまい、転んでは手をついてしまう状態でした。その度に母は荷物を少し先の水たまりのない所に置いて戻ってきては、手を痛い程にひっぱり上げて、連れ出してくれました。やっと船にたどりついて乗ると、千人乗りの軍艦でした。床は油でべとべとで、敷物が敷いてあり、そこで全員雑魚寝でした。私は、じっとしていられなくて梯子を登ったり、あちこち行ったりしては母に呼び戻されていました。船の速度が遅く、日本に着くのに六日間程かかったと聞きました。この間に赤ん坊や病弱な人が亡くなると、甲板で手をあわせて供養をして、日の丸の旗に包んで海に投げ込まれるのです。船には大きなサメが何頭かついてきていました。

そんな時に、弟が熱を出して乳を飲まなくなりぐったりしてしまったのです。母は必死で、千人の乗客のなかにはきっと医者がいるはずだと、弟をおんで人々の間を尋ねて回ったのです。幸いその中に一人のお医者さんがいて「気の毒で見えられない」と、持ち出しできないはずの薬と砂糖水を分けてくださったそうです。

仙崎の港に着き検問を受け、頭からDDTを真っ白にふりかけられてすぐ近くのお寺に収容されました。弟はジフテリアにかかっていたそうです。幸い弟は命をとりとめて回復に向かいましたが、一緒に寺に収容された赤ちゃんが亡くなってしまいました。そのお母さんの泣き叫ぶ声は今でも耳について離れません。亡くなった赤ん坊に「坊や、やっとおばあちゃんに会えると思ったのに…」、「坊や、笑ってちょうだい…ああ笑った、笑った…」、何度も大声で叫んでいました。

弟が回復するまでその寺に居て、母の在所（各務原市前渡）に行きました。母は長女で母の弟妹である叔父や叔母は独身で、私たちはかわいがってもらいました。それから父の里（各務原市岩地）に移りました。そこで私は那加第一小学校に入学しました。間もなく父の仕事の関係で大垣の国鉄の官舎に入ることになり、入学して半年余りで大垣北小学校へ転校しました。校舎は空襲で焼けていて、日本電気の仮校舎で二部授業をしていました。母は私が田舎から転校したばかりの一年生なので心配して弟を負ぶっては そっと見に来てくれていたようです。こんなこともありました。私が学校から帰ろうとすると靴や長靴がなくなっていて困っていると、担任の先生がよその父兄に「この子は大陸育ちでおっとりしているから」と話しているのが聞こえてきました。そのことを家で母に話すと「おっとりしているというのは、いい言葉だけど、ぼんやりしているということやよ」と言われました。

私達子供は親の庇護の元で生きて帰国し、幸せに暮らしていましたが、親達は大変な苦勞をしたと思います。父は常々三人の子供を一人も失わずに連れて帰れたことは、何よりの財産だといっていました。今思うと、父母の存命中にもう少し詳しく聞き、書き留めておけばよかったと思います。

戦後八十年を迎え戦争の悲惨な体験をした人たちは残り少なくなってきました。人を殺したり街や建物や自然を破壊したりすることの愚かさを身をもって知る人たちが少なくなってきました。二度とこんな過ちを繰り返すことがないことを願っています。



◀母手作りの防空頭巾

裏に書いてある住所氏名 ▶



会員の声

新オペラ貞奴が新たに描くもの① ～ 早川雪洲と青木鶴子 ～

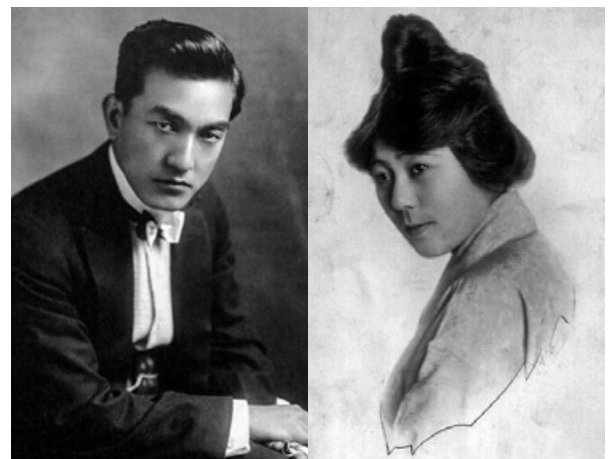
創作オペラ「貞奴」プロジェクト事務局長 藤田 敦子
岐阜県博物館友の会

来年は岐阜県ゆかりの川上貞奴の没後80周年となり、8月30日(日)に「新オペラ貞奴―すべては誠をもって―」を各務原市のプリニーの市民会館で初演する。2021年から伴走支援をしてきてくださった田口福寿会様や、県のぎふ創作オペラ助成事業などの応援で実現する。

この「新オペラ貞奴」には、新たなトピックも盛り込む。その一つが、「戦場にかける橋」などで有名な俳優の早川雪洲と、その妻の青木鶴子だ。雪洲は、1915年のサイレント映画「チート」で白人女性の心をつかみスターダムにのし上がったが、鶴子は雪洲以前からハリウッドの人気映画女優だった。二人は映画会社も立ち上げ、日本人が日本人を描く映画として、フェノロサ夫人が原作の、狩野派を継ぐ天才絵師として主人公を設定した「The Dragon Painter」(1919)も制作した。

鶴子は川上音二郎の実の姪である。音二郎と貞奴が1899年に世界巡業に出たときに、子役として養女になり一緒に渡米した。しかし川上一座がサンフランシスコで売上金を持ち逃げされ苦境におちいったときに、日系人画家の青木年雄に引き取られ、育てられた。川上夫妻が年雄に送った鶴子を気遣う手紙が今も遺されている。鶴子を、貞奴と同じ女優として、またパートナーを支える女性として、どのように描き、歌っていくのか、ぜひ見てほしい。

「新オペラ貞奴」の物語は、老境の貞奴が鶴子からの手紙を受け取るところから始まる…



▲画像:早川雪洲(1918)と青木鶴子(1915) (Wikipediaより)

70の手習い

岐阜県博物館友の会 兼松 克己

新聞で「雑草とよばないで」という企画展の開催を知り、初めて岐阜県博物館を訪れました。エレベーターで2階へ昇って廊下を歩いていると掲示板に「第二回恐竜学検定」というポスターを見かけ、好奇心から9月28日に受験することにした。1階の売店で参考書を見つくりっていると、売り子のIさんから声を掛けられた。岐阜県博物館の特別展の小冊子『みんなの恐竜学』を購入した。Iさんが博物館友の会に入るといろいろなことがあるよと教えてくれた。

はじめまして、この夏から友の会に参加しました。恐竜は孫が小学生の頃、熱中していましたが、まさか自分がその後を継ぐとはこの年になるまで思わなかった。10月には妻と福井県の恐竜博物館に行く。8月には岩手県立博物館でディノニクスの骨格標本をじっくり見てきた。来年は北海道のむかわ町博物館や東京の科学博物館へも行きたい。これを「恐竜行脚」とひそかに呼んでいる。日本恐竜の聖地岩手県岩泉町にも行ってみたい。友の会宿泊探訪の旅には参加できなかったけど、10月に岐阜県博物館が再オープンしたらよろしく。



◀ディノニクス
(岐阜県博物館)



▲小瀬鵜飼乗船場と鮎之瀬橋

はじめての鵜飼

岐阜県博物館友の会 SG

岐阜の夏を代表する伝統文化のひとつ、千年以上の歴史を誇り宮内庁式部職鵜匠によって今も受け継がれる鵜飼。岐阜県民でありながら、私はこの夏ようやく初めて小瀬の鵜飼を体験してきました。

少し早めに乗船場へ着いたのでクーラーのきいた涼しい部屋に居たのですが、ガラスの向こうに見える景色に引き寄せられ外へ。夕暮れの空は鮮やかな青にオレンジが混じり、やがて藍染のような深い紺に変化していきました。その色を映す長良川はキラキラと輝き、目を奪われているうちに出船の時刻となりました。

川に漕ぎ出すと、周囲には関観光ホテル以外の灯りはなく、やがて松明に火がとまります。炎が水面に揺らめきながら映り込み、ぱちぱちという音と、鵜匠の「ホーホー」という掛け声だけが響く静かな空間は、まさに「幽玄」という言葉がふさわしいものでした。

そして何より心に残ったのは、一生懸命に鮎を捕る鵜の姿です。篝火の下で健気に泳ぐその姿は愛らしくも力強く、鵜匠と鵜との間に築かれた深い信頼関係を物語っていました。長い年月を経ても変わらず続くこの技と営みは、観光としての魅力にとどまらず、人と自然とが共に紡いできた文化そのものであると実感しました。

さらに後日、せっかくだからと岐阜市の長良川鵜飼も体験しました。六隻の鵜舟が一斉に鮎を追い込む「総がらみ」の迫力は圧巻で、古式ゆかしい静寂の小瀬鵜飼とはまた違った趣がありました。クライマックスの光景に、同じ船に乗っていた小学生の兄弟が大喜びする姿を見て、鵜飼は大人だけのたしなみではなく、子どもも楽しめる行事なのだと認識を新たにしました。

来年は県外の友人を誘い、かつて織田信長がしたように、鵜飼でもてなしたいと思います。初めての鵜飼見物は、夏の思い出であると同時に、岐阜の伝統文化を新たな視点から見直す大切な機会となりました。

新収蔵品紹介

「歌川貞秀〔羽柴久吉公他武将図〕」

岐阜県博物館 学芸部 中川 創喜



▲歌川貞秀〔羽柴久吉公他武将図〕

令和6年度に岐阜県博物館友の会様よりご寄贈いただいた資料の中から、戦国武将を題材にした錦絵を紹介します。

本作は、歌川貞秀による三枚続の武者絵です。錦絵が人々に与える影響の大きさを憂慮した江戸幕府は、実在した戦国武将を錦絵の題材にすることを禁じていたため、本作は描いた武将に別の名前を宛てる「偽名絵」として制作されました。描かれた人物の姿や名前をよく見ると題材にされた人物が判明します。

中央上部に描かれた「羽柴久吉」は、唐冠・軍配・陣幕に太閤桐があることから、羽柴（豊臣）秀吉であることがわかります。中央下部で大筒を構える「佐名田昌幸」は真田昌幸で、陣羽織の模様が真田の家紋「六文銭」から「寛永通宝」に書き替えられています。

他にも加藤清正・福島正則ら「賤ヶ岳七本槍」として知られる武将を含む秀吉の家臣たちが描かれています。

【本作に描かれている武将】

- 羽柴久吉公 → 羽柴秀吉
 - 佐藤正清 → 加藤清正 ※
 - 津久嶋吉松 → 福島市松（正則） ※
 - 平良野勘平 → 平野権平（長泰） ※
 - 秋阪新内 → 脇坂甚内（安治） ※
 - 笠喜利助作 → 片桐助作（且元） ※
 - 佐藤玉之助 → 加藤左馬助（嘉明） ※
 - 蓮谷右ヱ門 → 糟谷助右衛門（武則） ※
 - 佐名田昌幸 → 真田昌幸
 - 越尾保助 → 堀尾茂助（吉晴）
 - 千極甚平 → 仙石権兵衛（秀久）
 - 鳥忠太郎 → 堀久太郎（秀政）
- ※は「賤ヶ岳七本槍」

令和7年度マイミュージアムギャラリー

今後の催事情報

岐阜県博物館 学芸部 佐藤 裕泰

令和7年度に開催を予定しておりました、第3回「鉄道コレクションと旅の思い出今昔展」、第4回「熱虫！夢虫!! 漫画★アニメ 本・グッズ コレクション!!『昭和100年・たいせつなものは かわらない。～断じて捨てない 離さない!～』」につきましては、休館期間の都合上、次年度以降への延期とさせていただきます。楽しみにされていた皆様には大変申し訳ございませんが、しばらくお待ち下さいますようお願いいたします。



▲第3回(延期)



▲第4回(延期)

第5回「岐阜生まれの戦国武将 黒野城唯一の城主・加藤貞泰展」、第6回「暮らしを彩る手仕事展」、第7回「魅惑のにゃんこ展ーアールヌーボーの美学ー」につきましては、年間計画通りの開催を予定しております。ぜひマイミュージアムギャラリーまで足を運び、研究成果や色とりどりの作品をお楽しみください。



▲第5回(開催) 10/25(土)ー11/24(月・振)

関連講演
加藤貞泰公特別講演
「どうする！貞泰」
11/3(月・祝) 13:30～
※要事前申込(先着順)



▲第6回(開催)
12/13(土)ー1/18(日)



▲第7回(開催)
2/7(土)ー3/8(日)

教育普及催事の今後の対応

岐阜県博物館 学芸部 藤井 和光

この夏は臨時休館によって、当館の利用を楽しみにしていた方々に多大なご迷惑、ご心配をおかけし、大変申し訳ございませんでした。また、復旧に向けて県内外から応援の声を多くいただきました。改めて、この場をかりて感謝を申し上げます。

臨時休館中も館外での教育普及催事（出張けんぱくの物づくり体験や発掘体験）を変わずに行うことで、児童・生徒の自然への興味関心を高めることができました。実物を見ること、触れることの教育的効果の高さを再確認すると同時に、一日でも早く博物館を復旧させ、実物を見たり、触れたりできる機会を取り戻したいと強く感じました。



▲出張けんぱく(化石レジnakセサリーづくり)の様子

さて、教育普及催事の今後の対応についてですが、再開館の目途が立ち次第、館内での催事を通常通り行っていきます。また、団体受け入れを再開し、多くの方に博物館の各種資料に触れていただく機会を確保してまいりたいと考えています。特に秋のシーズンは百年公園での自然観察も含めて、学校団体の利用が増えるので、来ていただく児童、生徒にとってよりよい体験になるよう対応をしてまいります。

友の会の皆様におかれましては、これまでと変わりにく引き続き博物館の展示を楽しんでいただけたら幸いです。

友の会事務局からのお知らせ

★令和7年度下半期友の会の主な活動

- 会 議 ・10月16日(木)秋季理事会
・3月12日(木)会長・副会長会議
- 委員会 ・探訪の旅委員会
- 友の会報 ・144号(10月)、145号(2月)
- 博物館との共催事業
 - ・けんぱく教室、わくわく体験
 - ・「七草がゆを食べよう」は今年度も開催しません。
- 探訪の旅
宿泊探訪の旅：「東北の世界遺産を訪ねてPart 2」と題し青森県の三内丸山遺跡、八甲田山等を計画していましたが、最少催行人数に満たず中止としました。参加予定をされていた皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしました。
探訪の旅(日帰り、宿泊)でご希望の場所・施設等があればお知らせください。

★友の会報への会員のみなさまの投稿をお待ちしています。

字数は1/2ページで700～790字(原稿用紙2枚弱)1ページだと1,500から1,600字です。これを目安に書いていただければ結構です。長文記事、連載記事もOKです。歴史・文化・自然に関することであればテーマは自由です。イラスト・絵画や写真+エッセイ等形式も自由です。

★ミュージアム・ショップより

新たに当館オリジナルグッズを作成しました。

- ・オリジナルスタンプ2種
イグアノドン足跡
岐阜県博物館印判
(右の画像)

- ・アロちゃんステッカー
- ・岐阜県博物館キャラクター・ライトキーホルダー
(10月中旬 販売開始予定)

また、岐阜大学繁殖学研究室等の標本をCTスキャンして作成した精巧な動物頭骨の3Dモデル全14種、さらに、本物のアンモナイト化石から型をとったアンモナイトキャンドルも新たに入荷しました。

